

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4070001286, 社会福祉法人みのり会, グループホーム 照日ヶ丘, 福岡県築上郡上毛町大字安雲585-4, 令和3年3月.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日. Values include 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター, 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号, 令和3年3月27日, 令和3年5月25日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

Table with 1 column containing 4 numbered points about facility environment, staff training, and ICT usage.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Table with 1 column containing a detailed paragraph about the facility's location, staff, and services.

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-70 contain specific evaluation items and results.

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を理解し、また理念をわかりやすく具現化し、共通の意識の中で取り組めるようにしている。	設立時より、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げている。理念は、事務所内に掲示され、職員はその6項目からなる内容を共有し、日々その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加させて頂いたり、地域の中での買い物や散歩の際は、挨拶を交わしたりしている。	日常的に、買物で地元のスーパーを利用したり、隣接するデイサービスの利用者・職員との交流がある。小学校の運動会や神楽等、地域行事への参加も恒例となっており、地域の一員として認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室に参加し、相談を受けたり適切なアドバイスが出来るようにしている。(コロナ禍で出来ていないが)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現状や課題に向けた取組を報告し、意見をいただくようにしている。	役場福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、福祉委員、地域有識者、家族の参加で2ヶ月に1回開催。運営状況等の報告を行っている。参加者からは、活発に意見が出ており、忌憚のない意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に現状や取り組みを報告し、また担当者からも情報をいただいている。	日頃から、連絡や報告等、情報交換を行っており、密な連携がとれている。気軽に相談もしやすく、「顔の見える」良好な関係が構築出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になる介護方法を具体的に上げ、職員全員が理解できるようにしている。落ち着きのない利用者には、一緒に散歩などに出かけるなどの対応をしている。	外部研修の参加、及び申し送りを兼ねた内部での勉強会を重ねることにより、職員は、禁止の対象となる具体的な行為について正しく理解しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。実際、対象者もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待事例を話し合う機会を作ると共に、職員負担などにも改善の目を向けて、職員の資質向上及び精神的負担の軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されていた方がいたため、定期的に司法書士と話し合う機会があり、また成年後見制度の必要と思われる利用者がおられる為、常に協議している。	以前、制度利用者が入居していたことによる経験、及び研修を通して、職員は制度の意義・内容を理解している。必要に応じて説明出来るよう、パンフレット等も揃え準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に十分な説明を行い、理解していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には、職員から声掛けし、話が伺えるような雰囲気作り心掛けています。意見については、早期に日々のケアなどに反映できるようにしている。	家族の面会時に、積極的にコミュニケーションをとり、意見や要望の収集を行い、運営への反映に努めている。コロナ禍での相談「面会がままならない」を受け、携帯電話を活用し、ガラス扉越しに話が出来るようにする等、即応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議や個別会議で要望や意見を言っただき、反映できるようにしている。	管理者は、各会議の場だけではなく、日頃からコミュニケーションの充実に努め、職員が意見や提案を行い易い雰囲気作りを行っている。出された意見や提案を運営に反映出来るよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の勤務状況を把握し、対応している。職員の生活状況に応じて勤務時間を柔軟に対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の一人一人の能力を認め、職場内及び地域で最大限に活躍できるように支援している。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際、20代から70代までの幅広い年齢層の職員が勤務している。業務の中で、職員の特長を活かせるような場面を設けたり、希望する研修に参加出来るよう勤務調整を行う等の配慮もあり、働きやすく、自己実現出来る職場作りに取り組んでいる様子がうかがえる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の教育を取り入れ、利用者や職員一人一人を尊重できるように努めている。	外部の研修に参加したり、虐待防止や身体拘束廃止、個人情報保護、プライバシーの尊重等、実際の業務を通しての人権教育・啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者内研修を実施し、職員の育成に努めている。また施設外の研修内容を事業所内で回覧し、職員全員が理解出来るようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で思うようなことが出来なかったが、地域の研修や催し物への参加などをした。(西・南吉富小学校、車イス体験講師)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状況を把握し、困っているところ、こだわっているところ、不安や要望などを理解し、安心していただけるよう対応を図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族に関しても担当のソーシャルやケアマネより聞くようにしており、不安や要望などを伺い、受け止め対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを理解したうえで、出来る限りの対応が出来るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理作りでは、利用者の得意な料理を作り、職員が教わるなどの関係を作っている。まあその際にはご家族の協力を得たりしている。(コロナ禍で思うようにできなかったが)		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と日々の生活状況の共有を図り、一緒に出来る事を常に探るようにしている。(コロナ禍で思うようにできていないが)		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出向き、近所の方と接するようになっている(サービスを利用していれば、その場所に行き会おうなどしている)	家族や友人・知人の面会奨励、行きつけの美容院やスーパー等の利用継続、自宅、及び周辺訪問等を通して、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで過ごせる時間や気の合った者同士の時間などその時々に分けて対応をしている。また、孤立しないように心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても事情情報を早めに渡すなど情報交換を積極的に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の情報を参加にしながら、ご本人の希望等を推測して対応している。	日頃から、本人の何気ない会話や行動を観察し、思いや意向の把握に努めるとともに、家族からの情報提供や、生活歴等から潜在化するニーズの把握に努め、本人本位の検討の手立てとしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や今迄に関わったサービス事業所等から情報収集し、ケアに活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムやその日の状態で、出来る事を見つけ出せるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の嗜好に添ったケアプランになるように常に見直しを図っている。	本人・家族はもとより、必要に応じて関係者から情報収集を行い、本人本位の計画を作成している。定期的、かつ状態・環境変化の都度、関係者間で話し合い、見直しを行いながら、現状に即した計画となるよう努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の日々のk月については、別に記載し、また職員には口頭で伝え、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思い、家族の思いが少しでも叶えられるように、外出や外食の際にはご家族が参加できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域連携は法人全体で行っており、その資源を活用しながら、日々のケアに繋げている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、今までのかかりつけ医と入所後もしていただけることを説明している。またその医師とも連携し、敵背悦な対応が出来るようにしている。	かかりつけ医の受診を尊重し、継続している。受診時には職員が同行し、医療機関と連携を図りながら関係構築に努めている。受診結果を家族に報告することで、安心、かつ納得が得られるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康状態及び病状の変化に対応できるようにしている。また、特別養護老人ホームの看護職員とも連携している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、日頃の状態などを医療機関などにお知らせするようにしている。また、退院支援がスムーズに行くように入院中から病院の関係者と連携を図っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や主治医と協議し、事業所として出来ることなどを説明し、理解を得ている。ご家族、主治医と連携を図り、可能な限り本人の希望に添うようにしている。	開設以来、積極的に看取り介護に取り組んでいる。事業所独自の指針の作成、家族への都度の説明、主治医・家族との協議、連携を行いながら、本人本位への支援に努めている。併せて、各人の思い出の尊重と、家族の介護ロスに配慮する等、入居者と家族に寄り添った支援を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、応急手当の対応が出来るようにしている。実際に起こった後も反省をし、見直しをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練や消火訓練を実施している。近隣の方にも協力していただける体制を築いている。	火災、地震、土砂崩れを想定した訓練を年2回実施。いずれも消防署の立会がある。食料や水の備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、言葉使いには十分配慮している。言っている言葉に気が付かない事があるため、職員間で声を掛け合っている。	羞恥心への配慮を始め、一人ひとりの生活歴からうかがえる習慣や趣味等を尊重しながら、その人らしい暮らしが実現出来るよう努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の能力にあった声掛けを実施し、思いや希望などを聞き出せるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体であることを理解し、一人ひとりのその日の状態にあったサービスが出来るように、日頃より臨機応変な対応に心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝から身だしなみが出来るように支援している。入所後も行きつけの美容室等に行けるように支援している。また、困難な方は、ホームに出張していただきカットしていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り等を計画する際には、利用者の意見が聞きだせるようにしている。また、片付けなどにも積極的に関わっていただいている。	栄養士が、入居者の好みを踏まえて献立を作成。選択メニューの導入を始め、刻み、ペースト状、やわらかくと、その人に応じた食べやすい状態での提供を行っている。片づけ等、入居者は出来る範囲での役割を担っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を把握しており、量が少なくなった場合は、栄養士と相談しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに力を入れており、毎食後の候ケアを実施している。また、歯科衛生士とも連携をしており、肺炎予防も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄を行っており、可能な限り下剤に頼らないようにしている。	職員は、排泄確認表をもとに、一人ひとりのパターンや習慣を把握している。原則、日中、夜間帯ともに、適時言葉かけを行いながら、トイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らずに、水分や乳製品の接種、運動に心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否が見られた際には、時間をずらすなど柔軟に対応しており、また入浴の声掛けにも工夫を凝らしている。	週3回午前中に入浴を行っている。一人ひとりの好みや状態に応じた入浴で、シャンプー等も個別対応している。時に菖蒲湯等を試みたり、会話が弾むよう努めたり、少しでも楽しめるよう取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動への参加を促し、生活リズムが整うように支援している。また夜間に起きられた方には、温かいお茶などを飲んでいただき、安心して眠っていただくようにしている。アロマセラピーを実施。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者を確認しながら、服薬介助している。薬の副作用を職員が理解しており、異常の際には連携しながら対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中に可能な限り役割を持っていただけるようにしており、ない場合は作るなどしている。コロナ禍で思うようにできなかったが、外出なども実施している。アロマセラピーの実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の楽しみに合わせて、買い物などを行っている。また墓参りなども希望があればご家族の協力を得ながら実施している。	敷地が広く、日常的に散歩の機会がもてている。一人ひとりの要望に応じて、花見や紅葉狩り、つくし取り等の季節のドライブ、ショッピングモールへの買物、外食、行事準備の買い出し等、定期的に外出の機会を設けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持てる利用者については、少額でも持てるようにしている。外になかなか行けないので、買い物日などの催しを行い始めた。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話できるように子機を準備し、WI-FIの環境を構築し、テレビ電話などがしやすい環境を作った。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心掛け、季節を感じていただけるように花などを飾るなど、心地よく生活していただけるように配慮している。	食堂リビングは、入居者の状態を考慮し、くつろげ、動きやすいように動線の確保を配慮したテーブルやソファの配置がなされている。壁には、入居者と職員が一緒に作って季節の飾りがあり、暮らしに彩りを与えている。換気も徹底している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様々な場所にソファなどを配置し、どこでも座れるようにしており、個別に楽しむ事が出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具などを持ってきていただけるようにしている。またその理由をご家族に理解していただけるように説明している。	各居室には、タンスやテレビ、仏壇、パッチワークの作品等々、入居者一人ひとりの習慣や趣味・嗜好等を反映したのが見られ、本人本位の空間作りがなされていることが確認出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置等も拘り、安全で自立した生活出来るように配慮している。		